

中期経営計画

NEXT STEP 2030

2026年4月1日



公益財団法人 東京都公園協会
Tokyo Metropolitan Park Association

目次

1. 中期経営計画の改訂にあたって.....	1
2. 中期経営計画の位置づけ.....	2
3. 中期経営計画の期間.....	3
4. これまでの活動の成果.....	4
5. 経営環境.....	5
6. 目指す姿と基本方針・基本戦略.....	6
7. 戦略の体系.....	7
8. アクションプラン.....	8
9. 参考資料.....	19

1 中期経営計画の改訂にあたって

私たち東京都公園協会は、2024年に策定した中期経営計画において「公園緑地・水辺を基点とした地域・まちづくりのパートナー」となることを掲げ、歩みを進めてまいりました。

この2年間、インバウンドへの柔軟な対応や災害対応力の強化、質の高い維持管理と収益性の向上など、真摯に取り組んできた結果、着実な成果を上げることができました。都民をはじめ、ご協力いただいた企業・団体・行政関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

一方で、私たちを取り巻く環境は今、大きな転換点を迎えています。経済情勢の変動や深刻な人材不足に加え、倒木など都市インフラとしての公園の老朽化の顕在化、さらにはDXの加速など、私たちが向き合うべき課題はより高度化・複雑化しています。こうした社会の変化にいち早く対応し、当協会に課された役割を確実に果たすため、このたび中期経営計画を「中期経営計画 NEXT STEP 2030」へとアップデートいたしました。

今回の改訂では、これまでの基本戦略をさらに明確化・具体化させるとともに、IT活用等による業務効率化を図り、時代の要請に即応できる組織への変革を加速させます。また、公益財団法人及び東京都政策連携団体として、これまで現場で培ってきた知識と技術、そして地域との信頼関係をもとに、緑と水辺の価値を最大限に高め、皆様に提供し続ける決意です。

本計画は、単なる数値目標の羅列ではありません。未来の東京の豊かな環境と、そこに集う人々の安全・安心を守り抜くという、私たちの強い「意志」です。

経営理念に掲げる「いつも誠実に、相手を思いやり、熱意をもって、一步を踏み出す」をいつも胸に、組織一丸となって中期経営計画の達成に取り組み、誇りをもって未来を切り拓いてまいります。



2026年3月
公益財団法人東京都公園協会
理事長

矢野 俊樹

2 中期経営計画の位置づけ

中期経営計画は、単年度の事業計画書や複数年の指定管理者の事業計画も含めた協会全体の目指す姿、方向性を示したものです。



3 中期経営計画の期間

中期経営計画は、社会環境の変化を見据えながら、長期的に目指す姿に照準を定め、実現するための計画です。2026年度改訂により、2030年度までの5か年計画となります。



4 これまでの活動の成果

当協会は設立以来、東京の公園緑地と水辺の利活用を通じて、都民生活に安らぎとゆとりをもたらすとともに、利用者サービスの向上に努めてきました。また、常に時代の変化に対応し、公園緑地と水辺の防災機能の発揮や地域連携の促進、多面的な活用に取り組む等の事業展開を図ってきました。

① 新たな時代の公園マネジメントで、多様なニーズに対応

公1

公園施設を適切に維持管理して、利用者に安全・安心・快適な空間を提供するとともに、地域住民や企業等と連携した様々な催しや取組を行い、公園と地域の魅力を向上させてきました。また、実践的な防災訓練により、防災時には大規模救出救助活動拠点や避難場所としての公園機能を最大限に発揮すべく、災害対応力を向上しました。更に、生物多様性に配慮した管理や普及啓発により、貴重な生態系を保全してきました。



日比谷公園

② 文化財庭園の魅力を高め、国内外に日本文化を発信

公1

確かな知識と培った技術により「保存管理計画書」に基づく作庭意図を尊重した維持管理を行ってきました。また、庭園の貴重な文化・環境を活かし、ライトアップや伝統芸能公演等、魅力的なプログラムを開催し、文化財庭園としての魅力の向上を図ってきました。



小石川後楽園

旧芝離宮恩賜庭園

④ 緑豊かなまちづくりに貢献

公1・2・3

東京の緑と水辺が有する歴史や魅力、大切さを、出版物や講座、日比谷公園ガーデニングショー等、様々な取り組みで広く伝えてきました。また、公園や水辺でのボランティア活動の支援や、東京都都市緑化基金による地域の緑化活動の支援を通じ、花と緑の豊かなまちを支える活動や人材育成に貢献してきました。



地域の緑化活動支援



街かど緑化支援事業

⑤ 水の都東京の魅力を創出

公1・3

隅田川等で水上バスを運航し、東京の水辺の魅力を活かした船旅を提供するとともに、防災時には防災船として物資及び人員搬送を担えるよう防災訓練を実施しました。また、地域や企業等と連携したイベントの実施等を通じて水辺空間の賑わいを創出しました。更に、調節池や隅田川テラス等の河川管理施設の維持管理、河川工事監督補助等の河川事業支援等を通して、都民生活の安全・安心を確保してきました。



水上バス「東京水辺ライン」

③ 静謐で安心できる霊園環境を提供

公1

故人を偲ぶ方々の心情に寄り添うとともに、公平・公正・正確な事務遂行と、安全・快適・静謐な園内環境づくりを行いました。また、日本の歴史や文化が残る場所として、更に都民が憩う都市の貴重な緑地空間として、その価値と利便性を高めました。



多摩霊園



谷中霊園

⑥ 公園や水辺の魅力を高めるサービスを拡充

収益

駐車場や売店、その他施設の運営を通じて、公園や水辺に訪れる人々へ憩いの空間やサービスを提供してきました。また、お客様のニーズや時代の変化を捉え、企業等と連携した取組を進める等、公園や水辺の魅力向上を推進しました。なお、得られた収益の一部は当協会が実施する様々な公益事業の原資にしています。



吉永バーベキュー売店



葛西臨海公園駐車場

事業区分について

公1 …都市緑化及び公園緑地等に関する普及啓発、利用促進及び防災機能の強化

公2 …東京都都市緑化基金の造成、管理及び運用

公3 …河川及び水辺環境に関する普及啓発、利用促進、施設管理及び防災機能の強化

収益 …公園駐車場や売店等を運営し、その収益を公益事業に充てるために行う事業

5 経営環境

マクロ環境及び公園緑地や水辺を取り巻く状況を以下のように捉え、戦略とアクションプランを策定しました。

マクロ環境

社会

経済

- 人口減少と少子高齢化
- 物価・人件費の上昇
- 働き方改革の推進
- 「ダイバーシティ&インクルージョン」の浸透
- 訪日外国人観光客の増加
- 日本の自然・文化への関心の高まり
- 趣味やレジャーの多様化・細分化

環境

- 気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化
- 巨大地震発生リスクの高まり
- インフラの老朽化、樹木の枯死・森林の衰退
- パンデミック等予期せぬリスク懸念

技術

- デジタル技術の発展
- DXの加速、生成AIの急速な進化

公園緑地や水辺を取り巻く状況

利用者

- 防災への意識向上
- コロナ禍以降の健康意識の変化と高まり
- 「メリハリ消費」の定着
- バリアフリーやユニバーサルデザインへの意識向上
- 生物多様性保全や環境配慮への意識向上
- 新しい働き方への期待

ニーズ

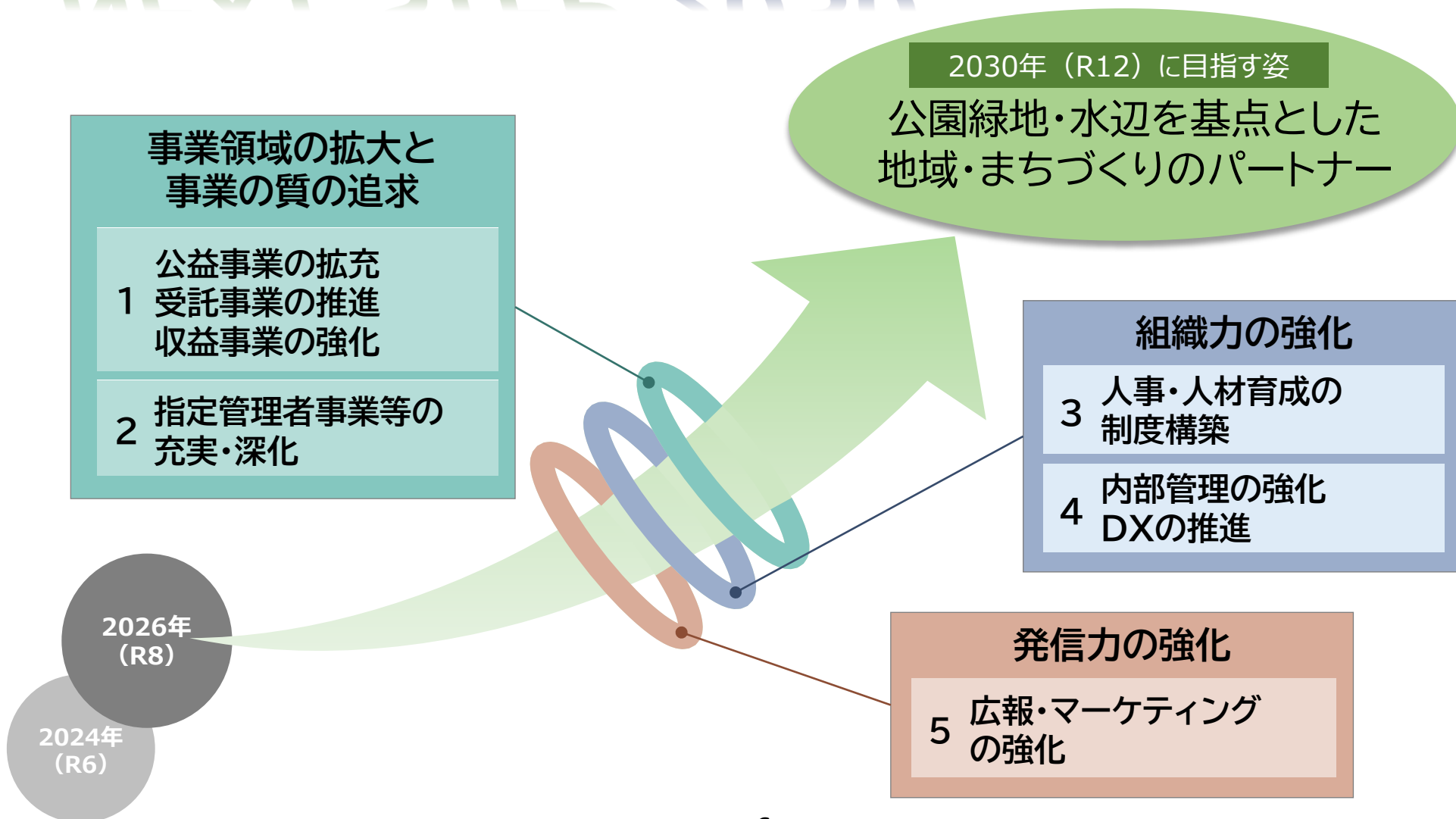
- コミュニケーションの場としての期待
- やすらげるオープンスペースとしての期待
- 地域コミュニティ形成・活動の場としての期待
- 災害時の避難場所としての期待
- 公園緑地の量的な拡充

管理者

- 参画する事業者の多様化
- 人材確保・人材育成の課題
- 公園緑地・水辺の運営に必要なスキルの変化

6 目指す姿と基本方針・基本戦略

NEXT STEP 2030



7 戦略の体系

基本方針	基本戦略	個別戦略
事業領域の拡大と 事業の質の追求	1 公益事業の拡充 受託事業の推進 収益事業の強化	1 人々と共に公園緑地と水辺を守り育てる仕組みの拡充 2 新しい事業・収益性向上への挑戦 3 多様化するニーズへの対応とインバウンド需要の獲得
	2 指定管理者事業等の 充実・深化	1 施設の安全性・快適性の向上 2 防災力の向上 3 生物多様性の保全・環境への配慮
組織力の強化	3 人事・人材育成の 制度構築	1 人事制度の見直し 2 人材育成の強化
	4 内部管理の強化 DXの推進	1 ガバナンスの強化 2 業務のシステム化
発信力の強化	5 広報・マーケティング の強化	1 戦略的な事業PRの展開 2 緑と水、協会の魅力を伝える取組

8 アクションプラン 1-1

基本戦略1 公益事業の拡充・受託事業の推進・収益事業の強化

個別戦略1 人々と共に公園緑地と水辺を守り育てる仕組みの拡充

近年の主な取り組み



公1

ボランティアと協働で公園緑地や水辺の魅力を向上（2024年度ボランティア活動費支援：都立公園115団体、河川清掃40団体）



公2

東京グリーンビズのコラボレーションパートナーとして、都主催のキャンペーンイベントに出展し、キャラクターとともに緑化に関する普及啓発や都市緑化基金のPRを実施



公2

東京都都市緑化基金による緑化普及のため「緑×建築×くらしのデザインフォーラム」「まちなみつなぐウォークガイドツアー」を開催（2024年度）



公3

越中島の隅田川テラスをはじめ、隅田川上流域でもマルシェやイベント等を開催し、賑わいのある水辺空間を創出する「すみだがわオープンテラス」を展開（2021年度～）

今後の更なる取り組み

●公園や街で緑を育む人々への支援

継続

公1

- ・公益事業の充実を図るため、既存事業と財源の整理・見直しを実施
- ・緑や水辺を守る担い手である都民や団体等に対し、助成や講習等による支援の拡充と情報提供を実施
- ・都民協働・募金・講座等の普及啓発活動を、主管部署と関係各部署が連携して推進することにより、公園協会のプレゼンスを高める



●東京都都市緑化基金による緑化助成の拡大

継続

公2

- ・気候変動や生物多様性等の新たな視点を盛り込んだ新しい制度で助成拡大



●隅田川の水辺の賑わいづくり

継続

公3

- ・すみだがわオープンテラスのコンテンツ拡充や、隅田川沿川での賑わいづくりの実施
- ・都、区、地元企業・団体等と連携した地域連携協議会を通じて、越中島テラスや隅田川上流域の活用を推進



8 アクションプラン 1-2 (公益事業・収益事業)

基本戦略1 公益事業の拡充・受託事業の推進・収益事業の強化

個別戦略2 新しい事業・収益性向上への挑戦

近年の主な取り組み



公1

「神代植物公園大温室夜間公開」
夜に咲く花の開花に合わせた夜間公開とイベントを実施（2022年度～）



公1

夜間特別開園「秋の夜長の小石川後楽園」
近隣の団体・企業と連携し、デジタル技術による光のアートで幻想的な秋のひとときを提供（2025年度）



収益

「JAとの連携」
公園で地場野菜を販売し、地域の公園利用者と地元農家がつながる場づくりと地産地消の後押し、公園の新たな賑わいづくりを実施（2022年度～）



公1

「関東大震災100年ブックフェア」
紀伊國屋書店と市政専門図書館、防災専門図書館と連携し、専門図書館としての視点から図書を紹介（2023年度）

今後の更なる取り組み

●大学、企業等との共同研究の実施

新規

公1

- ・緑と水に関する専門分野の研究と、施設管理運営上の課題※や現場ニーズをマッチングさせ、大学や企業等と課題解決に向けた共同研究を推進

※樹木管理、防災、地域連携 ほか



●公園のポテンシャルを発揮させる事業の開発

継続

公1

- ・公園や地域の歴史・自然等の魅力を題材とし、職員が案内するガイドツアー、動画を用いた情報発信を実施



●東京グリーンアーカイブス所蔵資料の適切な管理と活用

継続

公1

- ・あらゆる人々への緑と水に関する普及啓発のために、所蔵する史資料の適切な管理・活用を進めつつ、デジタル媒体も利用した情報発信を実施



●多様化するニーズに対応した売店・駐車場運営

新規

収益

- ・お客様ニーズや地域性を踏まえた売店運営を推進し、収益性を向上
- ・ナンバー認識やゲートレスのシステム導入により、駐車場の利便性を向上



8 アクションプラン 1-2 (受託事業)

基本戦略1 公益事業の拡充・受託事業の推進・収益事業の強化

個別戦略2 新しい事業・収益性向上への挑戦

近年の主な取り組み



公1

「花と光のムーブメント」
都立公園に魅力ある大規模花壇を新たに創出し、四季を通じた花と光の演出によって公園の新しい楽しみ方を提供（2022年度～）



公1

「東京パークガーデンアワード」
「持続可能なロングライフ・ローメンテナンス」をテーマとしたガーデンコンテスト（2023年度～）



公1

「ツリーバンク」
樹木を残す新しい仕組みであるツリーバンクとして、神代植物公園の用地で、移植した樹木を受入・保管（2023年度～）



公3

「神田川・環状七号線地下調節池インフラツアー」 河川施設整備の目的や効果について都民の理解を頂く事業（2022年度～）

今後の更なる取り組み

●事業受託の検討推進

継続

- 東京の緑と水辺の普及啓発と社会課題の解決に貢献するため、これまで公の施設の管理等によって培ってきた協会固有の専門性や組織知を活かせる事業の受託対応と体制づくりについて、持続的に検討

公1・3



●公園用地取得事業の推進

継続

- 都が整備する都立公園の事業用地の取得を推進し、公園整備にさらなる貢献

公1



●防災船導入への的確な対応

新規

公3

- 新しい船舶の導入にあたり、東京水辺ライン定期便や普及啓発便等の運航に向けて、着実な準備・対応を実施



●日比谷公園つつじ山の再生

継続

公1

- 公園の再生整備に向けた事業計画に基づき、貴重な苗木の確保や環境整備、育成管理、普及啓発等の検討を行い、花名所として再生・継承

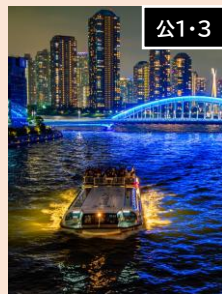


8 アクションプラン 1-3

基本戦略1 公益事業の拡充・受託事業の推進・収益事業の強化

個別戦略3 多様化するニーズへの対応とインバウンド需要の獲得

近年の主な取り組み



東京水辺ラインでは、隅田川のクルーズとセットで江戸東京ならではの文化財庭園や観光名所等を楽しめるイベント便や、夜景を堪能できるナイトクルーズを実施



向島百花園の「虫ききの会」では、鳴く虫の鑑賞やスズムシの放虫式を行い、日本の秋の風情を体感する機会を提供



浜離宮恩賜庭園は、西洋馬術導入の地であることから、流鏑馬や馬具の展示を実施し、往時を感じさせるイベントを提供（2025年）



庭を觀賞しながら楽しむ、上質なお食事の提供（小石川後樂園）

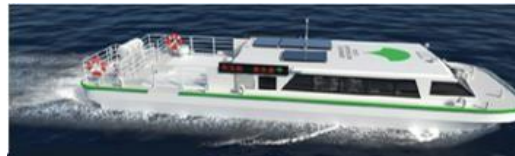
今後の更なる取り組み

●水辺の魅力を活かしたツアー

新規

- ・水上バスと隅田川沿川の文化・観光資源を活かしたツアー等を地域との連携により展開

公3



●文化財庭園の魅力を体感できるサービスの拡充

新規

- ・企業や団体等と連携し、庭園文化の奥深い魅力や、江戸時代や明治時代の生活文化を体感・実感できる高品質なサービスを拡充

公1



●日本文化を伝えるプレミアムな商品の展開

新規

- ・茶器・扇子等の伝統文化を感じられる土産物や、庭園や植物園ならではの時間が過ごせる飲食サービスの導入

収益



8 アクションプラン 2-1

基本戦略2 指定管理者事業等の充実・深化

個別戦略1 施設の安全性・快適性の向上

近年の主な取り組み



ユニバーサルデザイン遊具のある公園において、地域や支援メンバーと連携し、遊具を紹介するweb配信やイベントを開催したほか、自治体や他の指定管理者を対象とした情報連絡会を開催（2022年度～）



近隣の大学や劇団に連携を呼びかけ、園内の陸軍戸山学校野外演奏場跡と起伏のある環境を活かした野外ステージで「箱根山演劇祭」を開催（2023年度～）



旧芝離宮恩賜庭園において、「東京都による文化財庭園における保存管理計画書」に基づく大径木管理などの修景により大泉水の地割と広がりのある景観、またその周辺にある大山など築山の存在感を感じる景観を創出



神代植物公園において、園内と周辺地域のデジタルマップを近隣施設やスタートアップ企業と連携して開発し、見ごろの植物やイベント情報等をリアルタイムで発信

今後の更なる取り組み

●施設の「安心・安全」の追求

新規

公1

- ・樹木の維持管理を持続的に遂行するため、点検等の手法の見直し、資格取得やOJT等による人材育成を実施
- ・管理水準の向上と効率化・省力化を図るために、新しい技術や知見を積極的に収集・検討・試行する仕組みづくり



●施設のユニバーサルデザイン化

継続

公1

- ・遊具の消耗部材交換時に、既存部材への交換ではなく、一部をユニバーサルデザイン遊具へ転換
- ・ベンチ等の各施設補修時にユニバーサルデザインへの更新を検討し、指定管理者から率先して利用者ニーズに対応



●文化財庭園の上質な維持管理

継続

公1

- ・「東京都における文化財庭園の保存活用計画」等を基に、質の高い維持管理を実施し、庭園の魅力をより向上



浜離宮恩賜庭園「庚申堂鴨場」の景観向上

●施設の「満足度」の追求

新規

公1

- ・利用状況等の分析を行い、満足度向上に寄与する取組のほか、満足度低下につながる事故・トラブル等について、部署横断的に分析・評価等を行う仕組みづくり



8 アクションプラン 2-2

基本戦略2 指定管理者事業等の充実・深化

個別戦略2 防災力の向上

近年の主な取り組み



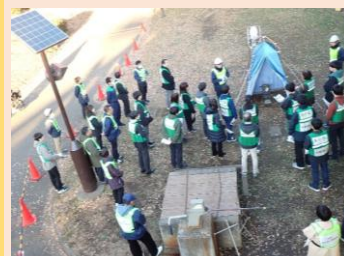
共通

防災公園所属の防災推進リーダー、防災介助士有資格者などを対象に「防災力レベルアップ研修」を実施し、専門講師の指導の下で避難行動要支援者への実践的な対応方法を習得（2024年度）



公1

地方自治体や地元町会、学校、企業等と連携した防災訓練を実施し、地域の災害対応力向上に貢献（2024年度：実施回数140回、参加者数40,021人）



公1

都の現地機動班（※）との合同訓練の実施（2024年度）
※都の現地機動班…危機管理監の下に都職員で編成され、警察・消防・自衛隊等の活動拠点となる都立公園等に参集し、大規模救出救助活動拠点の運営等に従事



公3

発災時に防災船として物資及び人員搬送を担えるよう実践的な防災訓練を実施（2024年度：実施件数12件・参加者数750人）

今後の更なる取り組み

●地域特性に応じた防災の普及啓発

- 地域の防災意識や自助・共助の力を高めるため、防災士や防災介助士の資格を有する職員が中心となり、避難行動要支援者等を対象に含むインクルーシブな防災訓練等を実施



外国人への防災施設紹介



障害者の避難支援訓練

継続

公1

●防災船の災害対応能力の向上

- 新船導入後、隅田川沿川の公共施設・公的機関等と連携した防災訓練を実施
- 災害時を想定し、各河川の巡回及び防災船着場の点検を実施
- 防災船としての役割や機能を紹介する広報活動を実施



物資搬送訓練



関係機関連携災害対策訓練

新規

公3

8 アクションプラン 2-3

基本戦略2 指定管理者事業等の充実・深化

個別戦略3 生物多様性の保全・環境への配慮

近年の主な取り組み



公1

城北中央公園において地域のボランティアと協働し、ビオトープ（とんぼ池）の清掃と保全活動を実施



公1

平山城址公園では、丘陵地レンジャー体験の中で沢に生息する水生生物の調査を実施し、幅広い年齢層の参加者に生物多様性保全の意義を啓発



公1

各公園では、維持管理作業で発生した材を活用した「工作教室」を自主事業として実施し、自然の造形に触れながら、手作りの楽しさや園内の植物の多様性を感じる機会を提供



公1

神代植物公園のサクラソウコレクション（293品種）が、その貴重性と保全・普及活動により日本植物園協会ナショナルコレクションに認定（2018年度）

今後の更なる取り組み

●生物多様性保全の取組

継続

公1

- 公園の動植物のモニタリング調査、保全管理作業等を実施
- 公園における生物多様性保全のための環境づくり等を都民協働により実施
- 外部専門家により取組内容の評価を受けるとともに、成果を発信
- 生物多様性の魅力と価値を、子どもたちにもわかりやすく伝える取組



●神代植物公園におけるツツジ、ツバキのナショナルコレクション認定への取組

新規

公1

- ツツジ、ツバキについて日本植物園協会ナショナルコレクション認定を受けることにより、神代植物公園のステータス向上と江戸園芸植物の保存体制を強化



●剪定枝、伐採木の再資源化の促進・拡大

継続

公1

- 脱炭素化に向けて、伐採や剪定による発生材の利活用や引き取りの取組を拡大することで、資源の有効活用に貢献



8 アクションプラン 3-1・2

基本戦略3 人事・人材育成の制度構築

個別戦略1 人事制度の見直し

近年の主な取り組み

共通

- ・「役割・役職等級基準表の策定」「管理・監督職・担当職ごとの行動目標の整備」による自己申告制度の見直し
- ・物価上昇等に対応する国の方針を踏まえた給与改定
- ・就職フェア出展や採用ホームページ作成等による採用強化
- ・技術職育成のための資格取得支援、研修等の実施強化

今後の更なる取り組み

●人事制度の見直し

新規

共通

- ・職種の細分化や新規採用の強化、給与改定等、時流に即した人事制度への見直しを実施
- ・造園技術職員や技能職員等に関する専門スキルの整理と、スキルを活かせる新規ポストの検討



個別戦略2 人材育成の強化

近年の主な取り組み

共通

- ・人材育成計画に基づき、職員の主体性を引き出し、更なるサービスマインドを醸成する、意識改革と行動変容を促す研修の開始
- ・所属部署にとらわれずに、若手職員同士や昇任間もない係長級との交流を活性化させる「つながり研修」の開始
- ・メンター制度の導入

今後の更なる取り組み

●人材育成の強化による実践力とエンゲージメントの強化

新規

共通

- ・意識改革と行動変容を促す研修を各職層別に実施
- ・様々な職層、年齢層に対する「つながり研修」の充実



8 アクションプラン 4-1・2

基本戦略4 内部管理の強化、DXの推進

個別戦略1 ガバナンスの強化

近年の主な取り組み

共通

- ・金銭管理や個人情報保護、情報セキュリティの強化を図るため、全職員を対象としたオンライン研修や業務に関連する法令等の研修を実施
- ・個人情報等の適切な管理について、部署内での自己点検及び他部署による点検を実施
- ・プライバシーマーク認証の取得

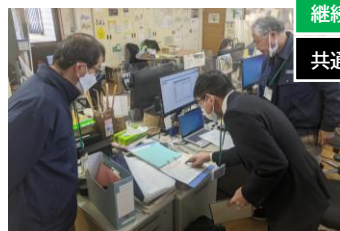


個人情報保護に関する職場研修

今後の更なる取り組み

●内部統制活動の推進

- ・プライバシーマーク継続の取組を通して個人情報保護、情報セキュリティの体制を継続的に強化
- ・適切な労働環境と安全衛生の推進を目指し、より働きやすい職場への改善



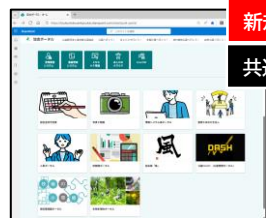
他部署による現場点検

継続

共通

●部署間連携の活性化

- ・組織のチームワークを高めるため、各部署の多様な事業や取組、職員の活躍等について、協会内での情報発信強化を検討・実施



新規

共通

個別戦略2 業務のシステム化

近年の主な取り組み

共通

- ・都立霊園公式サイトのチャットボットの改修や申込システム等の改修等による利便性の向上
- ・文書管理や人事評価、旅費精算のシステム導入・改修による業務効率化
- ・社内ナレッジシステム導入による職員への業務関連情報共有の効率化
- ・園内の樹木点検の効率化を支援するスマートフォンアプリの開発と特許取得
- ・墓参者がスマートフォンで利用できる墓所ナビゲーションシステムの開発と運用開始

チャットボットが
お答えします



都立霊園公式サイトのチャットボット

今後の更なる取り組み

●IT活用による業務効率化

- ・DX推進の基盤となるデジタルリテラシーの向上を進めると同時に組織全体における理解促進と意識醸成
- ・IT活用の検討を進めつつ、定型業務の効率化や文書作成支援等を効果の高い領域から導入

新規

共通

●霊園業務のDX推進

- ・新規貸付者選定のためのシステムのリニューアル・構築等による霊園業務の効率化推進
- ・WEB申請手続きの推進による霊園利用者の利便性の向上
- ・荒れ墓所や空き墓所への対応など適正な墓所管理を目的とした墓所デジタルマップの構築・運用

継続

公1

8 アクションプラン 5-1・2

基本戦略5 広報・マーケティングの強化

個別戦略1 戦略的な事業PRの展開

近年の主な取り組み

共通

- ・海外主要都市で開催された旅行博にてブース出展し、現地に派遣した職員が、文化財庭園や東京水辺ラインの魅力を現地の方へ情報発信
- ・台湾のインフルエンサーを起用し、SNSにて文化財庭園への来園誘致活動を実施



台北で開催された海外旅行博に出展



台湾のインフルエンサーとのコラボレーション

今後の更なる取り組み

●インバウンド獲得に向けたPR活動

継続

共通

- ・モデル事業をピックアップし、ターゲットに向けた戦略的なPR活動を、海外旅行博等の機会を活用して展開
- ・WEBサイトやSNSを活用し、潜在的訪日客の好奇心に応えるPR活動の実施

●相互連携を活かしたPR活動

継続

共通

- ・国内、海外の庭園と連携し、都立庭園のパンフレットの配布や映像放映、相互のSNS発信等のPR活動を検討・実施

個別戦略2 緑と水、協会の魅力を伝える取組

近年の主な取り組み

共通

- ・多摩地域のケーブルテレビにて当協会初の冠番組「東京みどりと水辺めぐり」を放映し、公園や庭園、水辺の魅力を発信するとともに、当協会のPRを実施
- ・SNS広告やWEB広告等、時代に応じた新たな発信方法で情報を発信



多摩テレビ「東京みどりと水辺めぐり」



記者クラブへの施設アピール

今後の更なる取り組み

●協会の強みを活かした広報活動

継続

共通

- ・毎年テーマを設定し、メディアに対してリレーションを組み、報道機会に結び付ける
- ・庭園文化、生物多様性、防災など、テーマ性を持たせた情報発信をWEBサイトやSNSを用いて展開



參考資料

東京都公園協会の概要

概要

名 称	公益財団法人東京都公園協会
所 在 地	〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-44-1 東京都健康プラザ「ハイジア」9階・10階
設 立 年 月 日	昭和23年2月1日（任意団体として発足） 昭和29年2月25日（財団法人設立許可） 平成22年4月1日（公益財団法人設立）
目 的	都市緑化、公園緑地、河川及び水辺環境に関する事業を通して、都民生活に安らぎとゆとりをもたらし、あわせて日本の文化を世界に発信する。
代 表 者	理事長 矢岡 俊樹
役 員	理事12名 監事2名（令和7年4月1日現在）
職 員 数	793名（令和7年4月1日現在）
基 本 財 産	3億4465万円（令和7年4月1日現在）
都 市 緑 化 基 金	29億3909万円（令和7年3月31日現在）
事 業 規 模	315億1369万円（令和7年度予算経常収益額）

協会の機構

【法定機関】

1. 評議員会 すべての評議員をもって構成し、理事及び監事の選・解任、常勤理事の報酬の総額、賃借対照表及び正味財産増減計算書の承認のほか、法令や定款で定められた事項を決議する。
2. 理 事 会 すべての理事をもって構成し、業務執行の決定、理事の職務の監督、代表理事・業務執行理事の選定・解職、事業計画及び収支予算の承認のほか、法令や定款で定められた職務を行う。
 - ・理 事 長（1名）代表理事であり、業務を執行する。
 - ・専務理事（1名）必要がある場合に設置する。協会の代表理事であり、業務を執行する。
 - ・常務理事（2名）1人を代表理事、1人を業務執行理事とし、業務を執行する。ただし、専務理事を設置しているときは、2人を業務執行理事とする。
 - ・理 事 理事会を構成し、職務を執行する。
3. 監 事 協会の業務及び財産の状況、並びに理事の職務の執行を監査し、監査報告書を作成する。必要がある場合は評議員会・理事会で報告する。

【任意機関】

4. 評議員選定委員会
評議員選定委員で構成し、評議員を選・解任する。
5. 東京都都市緑化基金運用委員会
理事長、専務理事、常務理事、理事及び事務局長のほか、都市緑化に関する学識経験を有する者により構成し、東京都都市緑化基金に関して、円滑な運用に関する計画案を策定して理事会に提出し、業務の適正を確保するため必要な事項について理事会に参考意見を提出する。並びにその他理事会の諮問に対し答申する。
6. 名誉顧問 必要がある場合に設置する。理事長の諮問にこたえる。

公益目的事業

公1事業 都市緑化及び公園緑地等に関する普及啓発、利用促進及び防災機能の強化

●指定管理者事業

東京都立の公の施設を指定管理者として管理運営する事業です。
都立公園、都立庭園、都立霊園、都営の葬儀所等の指定管理者の指定を受けています。

●指定管理者事業以外の公益目的事業

- ・普及・都民交流事業…緑と水の普及・啓発、公園で活動するボランティアの支援等を通じて、多くの都民が参加できる多様なプログラムを提供し、公園緑地や水辺の利用促進を図る事業です。
- ・総合力レッジ事業…広く都民が緑と水に親しみ、その知識を深めていくことを進めていく事業です。
- ・サポーター基金事業…都立公園や庭園を支援する個人・企業等からの寄付等を有効に活用し、都立公園や庭園の魅力アップと活性化を図る事業です。
- ・調査・研究事業…研究機関等とも連携した調査研究等を実施し、緑と水辺から広げる東京の環境創造への寄与を図る事業です。

公2事業 東京都都市緑化基金の造成、管理及び運用

東京都からの出捐金及び一般からの寄付金を活用し、東京都の民有地の緑化推進に充てる事業です。

公3事業 河川及び水辺環境に関する普及啓発、利用促進、施設管理及び防災機能の強化

- ・水辺魅力アップ事業…水辺、河川の魅力向上や河川施設の役割や効果のPRを進める事業です。
- ・防災船活用事業…防災船として災害対策に備えるとともに、平常時には隅田川等を運航して都民に船旅を提供し、東京の水辺空間のにぎわい創出を目指す事業です。
- ・舟運活性化事業…東京都や関係区と連携し、防災船着場における一般船舶の平常時利用等を推進していきます。
- ・河川・水辺保全業務…東京都からの委託を受けて、地下調節池の保守管理や土砂災害対策及び河川工事の工事監督等、都民生活の安全・安心を確保します。

収益事業

公園収益事業

主に公園・庭園・葬儀所に設置された売店・飲食店・駐車場等から得られる事業収益を公益目的事業(公1事業、公2事業)に充てるために行う事業です。

水辺収益事業

未利用の河川敷地等を活用して駐車場を運営し、そこから得られる事業収益を公益目的事業(公3事業)に充てるために行う事業です。

管理施設の推移

年 月	新規管理施設	公園	庭園	霊園	その他
1985 (昭和60) 年 10 月	日比谷公会堂、青山霊園等8霊園及び瑞江葬儀所、青山葬儀所	0	0	8	3
1986 (昭和61) 年 4 月	戸山公園等27一般公園の運営管理の一部	27	0	8	3
6 月	東白鬚公園等4公園の運営管理の一部	31	0	8	3
1987 (昭和62) 年 4 月	緑の図書室、舎人公園の運営管理の一部（北江古田公園を中野区へ移管）	31	0	8	4
1988 (昭和63) 年 4 月	野山北公園等4公園の運営管理の一部、夢の島熱帯植物館	35	0	8	5
10 月	戸山公園等3公園の運営管理の全部				
1989 (平成元) 年 4 月	武蔵野中央公園	36	0	8	5
1990 (平成2) 年 4 月	大泉中央公園、小山田緑地、八国山緑地（洗足公園を大田区へ移管）	38	0	8	5
1991 (平成3) 年 4 月	日比谷公園緑の相談所等5相談所、府中の森公園	39	0	8	10
1992 (平成4) 年 4 月	林試の森公園、木場公園及び木場公園緑の相談所	41	0	8	11
1993 (平成5) 年 4 月	祖師谷公園	42	0	8	11
1997 (平成9) 年 5 月	浜離宮恩賜庭園等8庭園の運営管理の全部	42	8	8	11
1998 (平成10) 年 4 月	砧公園、蘆花恒春園、駒沢オリンピック公園	45	8	8	9
1999 (平成11) 年 4 月	光が丘公園	46	8	8	9
2000 (平成12) 年 4 月	武蔵野の森公園	47	8	8	4
2001 (平成13) 年 4 月	中川公園、尾久の原公園	49	8	8	4
10 月	旧岩崎邸庭園	49	9	8	4
2002 (平成14) 年 4 月	大島小松川公園、葛西臨海公園、宇喜田公園、小金井公園、玉川上水緑道、武蔵国分寺公園	55	9	8	4
2006 (平成18) 年 4 月	指定管理者制度へ移行、51公園9庭園8霊園1葬儀所。うち新規は葛西海浜公園（港湾局所管海上公園）、汐入公園、六仙公園、小山内裏公園（夢の島公園等8公園、青山葬儀所、日比谷公会堂、夢の島熱帯植物館は他指定管理者へ移管）	51	9	8	1
2008 (平成20) 年 4 月	大神山公園、青山公園、明治公園、小峰公園、八丈植物公園	56	9	8	1
2009 (平成21) 年 4 月	日比谷公園、代々木公園、水元公園	59	9	8	1
2010 (平成22) 年 4 月	神代植物公園、奥多摩ビジターセンター	60	9	8	2
2011 (平成23) 年 4 月	41公園、9庭園、8霊園、1葬儀所、2ビジターセンターを管理、うち新規は大戸緑地、小笠原ビジターセンター	41	9	8	3
2014 (平成26) 年 4 月	駒沢オリンピック公園	42	9	8	3
2016 (平成28) 年 4 月	43公園、9庭園、8霊園、1葬儀所、1施設、2ビジターセンターを管理、うち新規は東白鬚公園、汐入公園、武蔵野中央公園、府中の森公園、東村山中央公園、東大和南公園、日比谷大音楽堂（陵南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地、明治公園は他指定管理者等へ移管）	43	9	8	4
2020 (令和2) 年 4 月	43公園、9庭園、8霊園、1葬儀所、1施設、1ビジターセンターを管理（奥多摩ビジターセンターは他指定管理者へ移管）	43	9	8	3
6 月	高井戸公園	44	9	8	3
2021 (令和3) 年 4 月	43公園、9庭園、8霊園、1葬儀所、1施設、1ビジターセンターを管理（葛西海浜公園は他指定管理者へ移管）	43	9	8	3
2023 (令和5) 年 5 月	練馬城址公園	44	9	8	3
2024 (令和6) 年 2 月	東京臨海広域防災公園	45	9	8	3
2025 (令和7) 年 12 月	45公園、9庭園、8霊園、1葬儀所、1ビジターセンターを管理（日比谷大音楽堂の指定管理が終了）	45	9	8	2

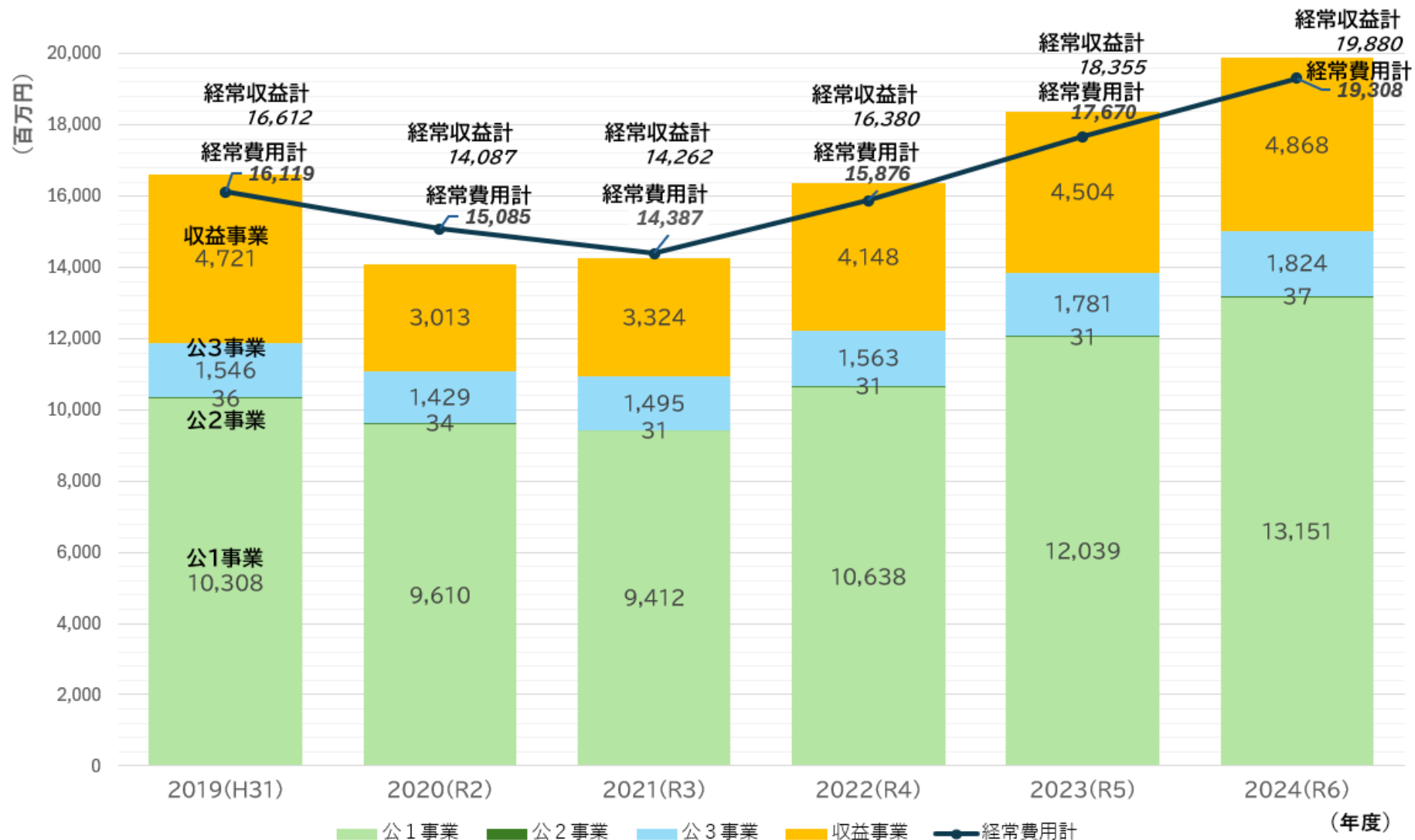
参考資料 組織体制

<部>	<課>	<係>
総務部	総務課	庶務係/情報システム係/デジタル戦略係/広報係/企画係/コンプライアンス担当係長
安全担当部長	情報システム担当課長	
	経営改革担当課長	
	人事課	人事給与係/給与福利担当係長/人材育成係
	人材育成担当課長	
	財務課	財務係/予算担当係長/経理係
水辺事業部	調整課	調整係/施設係/施設管理担当係長/暫定係留管理所/扇橋閘門管理所
	技術担当課長	
	水辺利活用促進担当課長	
	水辺ライン課	管理係/水辺ライン係/イベント便担当係長/普及啓発便担当係長/運航係/防災船着場係
	運航管理担当課長	
	河川事業支援課	土砂災害係/土砂災害担当係長/工事監督係/工事監督担当係長
公園事業部	事業管理課	管理係/事業企画係/公園改革係/事業推進係/パークガーデン係/イベント開発担当係長/防災担当係長/検収指導係/維持係/樹木健全担当係長/自然普及担当係長/営業技術担当係長
技術管理担当部長	事業企画担当課長	
	公園改革担当課長	
	事業開発担当課長	
防災担当部長	防災担当課長	
	維持管理担当課長	
	都市部南部エリア担当課長	管理運営係/維持係/芝公園等5公園サービスセンター
	都市部北部エリア担当課長	管理運営係/維持係/戸山公園等8公園サービスセンター
	多摩丘陵エリア担当課長	管理運営係/維持係/自然公園担当係長/小山田緑地等7公園サービスセンター等
	防災区部西エリア担当課長	管理運営係/維持係/砧公園等6公園サービスセンター等
	防災区部東エリア担当課長	管理運営係/維持係/東白鬚公園等5公園サービスセンター
	防災多摩部エリア担当課長	管理運営係/維持係/武蔵野中央公園等6公園サービスセンター
	日比谷公園	副園長
	代々木公園	副園長
	木場公園	副園長
	舎人公園	副園長
	葛西臨海公園	副園長
	小金井公園	副園長
	神代植物公園	管理係/広報普及担当係長/教育普及担当係長/技術係/園芸係/植物多様性センター
	公益事業推進課	計画係/緑の基金担当係長/都民協働係/公益還元事業担当係長/水辺公益係
	緑と水の市民カレッジ事務局	教育調査係/広報普及係
	技術管理課	技術支援係/研究開発係/受託事業係
	営業課	営業企画係/食品衛生担当係長/商品開発係/店舗開発係/営業推進係/駐車場担当係長
	文化財庭園課	文化財庭園係/庭園維持係/ユニークバニユ担当係長/観光振興担当係長/浜離宮恩賜庭園等9庭園サービスセンター
	庭園維持担当課長	
	霊園課	管理係/業務担当係長/徴収係/貸付係/調整係/墓所整備係/霊園改革係
	霊園改革担当課長	
	雑司ヶ谷霊園管理事務所	管理係/業務係/技術担当係長/青山霊園等3管理所
	八柱霊園管理事務所	管理係/維持係
	多磨霊園管理事務所	管理係/技術係/業務担当係長/八王子霊園管理所/技術担当係長
	小平霊園管理事務所	管理係/維持係
	瑞江葬儀所管理事務所	管理係/技術係
	用地取得課	用地取得係

参考資料 協会のあゆみ

1948（昭和23）年	任意団体東京公園協会が発足。事務所を千代田区大手町の東京都建設局公園緑地課内に置く。
1954（昭和29）年	財団法人東京都公園協会として設立許可。井の頭公園売店、井の頭自然文化園スポーツランドを開設。
1961（昭和36）年	公共造園に関する業務を東京都から受託。
1964（昭和39）年	東京都公園協会賞及び基金に関する規定を制定。
1985（昭和60）年	東京都都市緑化基金設置。東京都の財政支出団体に指定される。
1987（昭和62）年	東京都財政支出監理団体（指定団体）となる。
1990（平成2）年	奥多摩ビジターセンターの自然解説業務を東京都から受託。小峰公園の自然解説業務を東京都から受託。
1991（平成3）年	本社を千代田区丸の内、東京都丸の内庁舎13階へ移転。
1992（平成4）年	山のふるさと村ビジターセンターと御岳インフォメーションセンターの自然解説業務を東京都から受託。八丈ビジターセンターの自然解説業務を東京都から受託。
1995（平成7）年	東京水辺ライン運行等の水辺環境事業を開始。
1997（平成9）年	東京都監理団体（一般監理団体）に指定。
1998（平成10）年	緑地管理機構の指定を受ける。
1999（平成11）年	扇橋閘門の管理業務を東京都から受託。
2000（平成12）年	緑と水の市民カレッジ事務局を設置。「緑と水の市民カレッジ」開館。
2002（平成14）年	霊園使用者の募集事務を東京都から受託。
2004（平成16）年	都立公園サポーター基金事業を開始。
2006（平成18）年	都立公園等における指定管理者制度開始。本社を新宿区歌舞伎町、東京都健康プラザ「ハイジア」9・10階へ移転。
2008（平成20）年	土砂災害警戒区域等の指定支援や河川工事の施工監督補助業務を東京都から受託。
2010（平成22）年	公益財団法人東京都公園協会としてスタート。
2011（平成23）年	「みどりの図書館東京グリーンアーカイブス」開館。浅草（二天門）発着場開設。
2012（平成24）年	神代植物公園植物多様性センターの受託開始。
2019（平成31）年	東京都政策連携団体に指定。
2024（令和6）年	用地取得業務を東京都から受託。

参考資料 過去の年度別収支状況



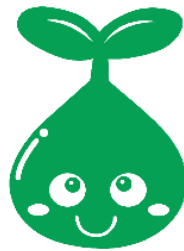
中期経営計画 NEXT STEP 2030

2026年4月1日発行

編集・発行 公益財団法人 東京都公園協会
東京都新宿区歌舞伎町2-44-1
東京都健康プラザ「ハイジア」9階・10階
電話 03-3232-3011
ホームページアドレス
<https://www.tokyo-park.or.jp/>



公益財団法人 東京都公園協会
Tokyo Metropolitan Park Association



東京都都市緑化基金
‘ふたばちゃん’



防災キャラクター
‘ともすけ’



「TOKYO霊園さんぽ」
‘みたまちゃん’



多摩丘陵公園キャラクター
‘たまきょうりゅう’